

「筆順」の楽しい覚え方

藤井浩治

一. はじめに

「筆順は苦手」と思っている人は多いのではないでしょう。私も子供の頃は筆順が大嫌いでした。途中をどう書いたって最終的な出来上がりの漢字を間違えていなかったらいいじゃないか。また、たくさんある漢字の筆順を個々に覚えられるわけがないと考えていました。しかし、実は「筆順」の「きまり」を覚えておけば、多くの漢字を正しい筆順で書けるようになるのです。

二. 筆順の基礎編「左右の筆順」

① 右
② 左

「右」と「左」は形のよく似た漢字ですが、筆順が違います。「右」は「はらい」から書きますが、「左」は「横画」から書

きます。どうして「右」と「左」は筆順が違うのでしょうか

うか。これは漢字の「成り立ち」に関係しています。左図のように、左右の「手と腕」の形が基になって「左右」の漢字ができあがりしました。昔の「右」という漢字の「指」が左に寄って「はらい」になり、「腕」が横に伸びて「横画」になって、現在の「右」という漢字になりました。そして、昔の「左」という漢字の「指」が横に直線になって「横画」になり、「腕」が「はらい」になって現在の「左」という漢字になったのです。



筆順を見ると、「右」と「左」のどちらも「指」から書いていることが分かります。また、「右」の「はらい」が短いのは「指」だからであり、「横画」が長いのは「腕」

だからです。同じように「左」の「横画」が短いのは「指」だからであり、「はらい」が長いのは「腕」だからです。つまり、「左右」の漢字は、一見筆順が違うように見えますが、両方とも「短い指」から書いて次に「長い腕」を書く点で共通しており、「右」は「短いはらい」から書き、「左」は「短い横画」から書くことが分かります。

この「筆順のきまり」に当てはまる漢字は次の通りです。筆順だけでなく、画の長さにも気をつけて書くことと文字は整います。

○「短いはらい」から書いて「横画の長い」漢字
有 希 布 若

○「短い横画」から書いて「はらいの長い」漢字
友 在 存

三、筆順の応用編「土」と「王」の筆順

(1)「土」の筆順のきまり

「土」と「王」という漢字はよく見ると、どちらにも「土」という漢字があります。しかし、図1のように「土」

は「横・縦・横」の順で書きますが、「王」の部分にある「土」は「縦・横・横」の順に書きます。

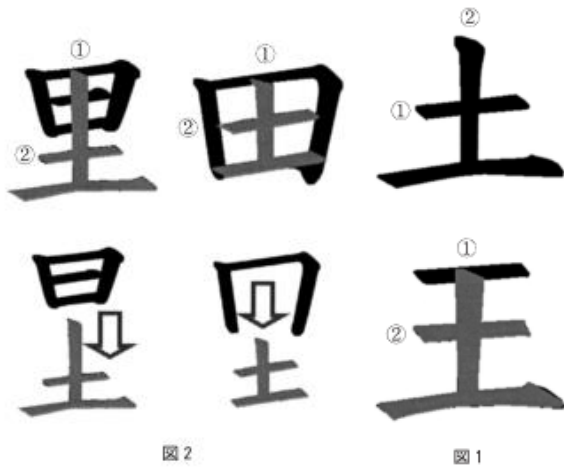


図1

図2

他にも「土」が隠れている漢字を見てみましょう。図2のように「田」と「里」にも「土」という漢字がありますが、「田」と「里」の「土」も「王」と同じで、「縦・横・横」の順に書きます。何か共通点に気がつきませんか。

そうですね、「土」の上に何も無い時は、「横・縦・横」の順に書き、「土」の上に何かがある時は、「縦・横・横」の順に書くのです。

(2)「土」の仲間(横・縦・横)の筆順

「土」と同じ「横・縦・横」の筆順の漢字は、「寺」「週」のように、漢字の一部に「土」があるもの、「先」「者」

のように「土」に「左はらい」があるもの、「土」「売」のように下の横画が短いもの等あります。

このように、漢字の一部に「土」に似た部分がある漢字（「土」の上に何も無い）の筆順は、「土」と同じ「横・縦・横」の筆順になります。

寺先売

○「土」と同じ筆順の仲間（横・縦・横）

土赤先社寺走考売時週遠
園地場去幸仕持待詩等者
暑起軽調士告型径街喜結
周統達徒堂特法老陸熱塩
圧在志舎基墓経均増境造
勢報至孝署著諸裁捨陞洗
樹誌装穀

(3)「王」の仲間（一を書いて・縦・横・横）の筆順

「王」は「土」の上に「一」があるので、まず「一」を書いて、次の「土」は「縦・横・横」の筆順になります。

す。

王全生進

「王」の仲間には「主」や「全」のように漢字の一部に「王」があるもの、「麦」や「生」のように「王」の上に「縦画」が突き出たものの、「進」「馬」のように「一」の下の

「横画」が三本あるもの（一を書いて、縦・横・横・横）などがあります。このように、漢字の一部に「王」や「王」に似ている部分のある漢字は「一」を書いて、縦・横・横」の筆順になります。

○「王」と同じ筆順の仲間「一」を書いて・縦・横・横」

王玉生青国馬曜星晴麦全球
主住注柱美着駅進集表望差
養議驗観害産清静積毒往程
義雜準護確責績情精素潔性
宝皇聖班割憲推難奮権

(4) 「田」の仲間 「口」を書いて、縦・横・横

「田」は「土」の上に「口」があるので、まず「口」を書いてから、次の「土」は「縦・横・横」の筆順になります。

田
①
②

男画豊

「田」の仲間には、「男」や「魚」のように漢字の一部に「田」があるもの、「画」や「由」のように「田」の「縦画」が上に突き出た漢字、「曲」「典」のように「田」の縦画が二本ある漢字などがあります。

ります。(「口」を書いて、縦・横・横)

このように、漢字の一部に「田」や「田」に似た部分がある漢字の筆順は「口」を書いて、縦・横・横」になります。

○「田」と同じ筆順の仲間 「口」を書いて、縦・横・横

田男町細思魚番画黄角畑界
福鼻由笛油曲農胃勇漁副博
典留富略増解再構講豊異層
奮専宙届

(5) 「里」の仲間 「日」を書いて、縦・横・横

「里」は「土」の上に「日」があるので、まず「日」を書いてから、次の「土」は「縦・横・横」の筆順になります。「里」の仲間には「黒」や「理」のように漢字の一部に「里」がある漢字、「重」や「動」のように「里」の「縦画」が上に突き出た漢字、「勤」のように上が「口」になって、「土」の横画が三本になった漢字(口を書いて、縦・横・横・横)などがあります。

里
①
②

理重勤

このように、漢字の一部に「里」や「里」に似た部分がある漢字の筆順は「日」を書いて、縦・横・横」になります。

(6) 「土」と「王」の筆順が異なる理由

「土」の上に画がある時とない時で「土」の筆順が異なることは分かりましたが、それではなぜ筆順を変えなければならぬのでしょうか。まず、次の画へのつながりを見てみましょう。

「土」は、正しい筆順の図3と、間違った筆順の図4を見比べると、正しい筆順(横・縦・横)の方が明らかに近

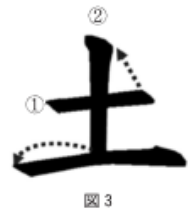


図3

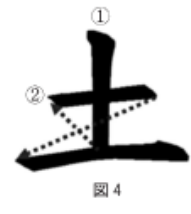


図4



図5

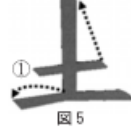


図6

道をして次の画に進んでいくことが分かります。しかし、「里」の場合は「土」の上に「日」が乗っているため、どうしても「土」の

縦画が長くなってしまいます。そのため、「土」と同じ筆順の図5のように書いてしまうよりも、正しい筆順（縦・横・横）図6のように書いた方が近道をして次の画に進むことができます。

つまり、筆順とは画のつながりをできるだけ短くしてスムーズに書きやすくするようにできているのです。

○「里」と同じ筆順の仲間「日」を書いて、縦・横・横

里 黒 理 野 童 重 動 量 種 裏 勤

(7) 難しい「座」の筆順を解説

それではここで筆順をとっても間違えやすい「座」という漢字を見てみましょう。「座」の中にある「土」は「①

横・縦・横」でしょうか。それとも「②縦・横・横」でしょうか。



正解は②の「縦・横・横」です。「土」の上に「人」が二つ乗っています。それで、「土」の縦画が長くなっています。ですから「縦・横・横」の筆順で書くのです。

最後に「土」の上に何かあっても、次の場合は「土」の筆順のままなので注意しましょう。

- ① 「土」が漢字の下部にある場合「基・墓・陞・至・堂」
- ② 「土」の上に「かんむり」等がある場合「著・暑・捨・署」
- ③ 「土」の周りに「かまえ」がある場合「園」
- ④ 「土」の上に「左はらい」がある場合「任・賃」

(尾道市立御調西小学校 校長)

※参考文献『新・字形と筆順』宮澤正明著（光村図書出版）

『筆順のはなし』松本仁志著（中央公論社）

『漢字指導の手引き』久米公著（教育出版）

『御調文学55号』尾道市文化協会発行（令和3年3月）